



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 ユー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「聖地旅行」その④

その日は主イエスの育ったナザレの町の見学だ。丘の上に盆地状になった斜面を埋め尽くすかのよう民家が密集している。町は多くの人々が行き交い、喧騒そのものでイエス様の時代の面影は全くない。二千年前は二百人前後のごく小さな村だったようだ。現在、その当時を再現する「ナザレ村」があり、ローマ帝国の支配下にあった当時の人々の面影を見せてくれる。竹をふいて屋根にした住居を建て、当時の衣装を身にまとい、衣服もつむぎ、会堂も建て、ロバに牽かせるオリブ絞りの様子までも再現されている。主イエスは家具を作ったり、石工をして生計を立てていたが、人口の少ないナザレでは仕事のあてもなく、「恐らく近くの村に出かけて行って仕事をしていたらう」との説明であった。救い主と言えども、ローマ帝国の支配下、厳しい税の駆り立てを味わい、仕事の苦しみや貧しさを味わったことであろう。ヘブル書に「主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができる」(二・18)とあるが、日々の苦しみを通ったが故に、そこからにじみ出てくる主イエスの人々への愛と温もりが感じられて、ナザレは深く心に残った。

その日の夕方、ガリラヤ湖に着いた。海面下二百メートルに位置するこの湖は、盆地状になっていて、湖の近くになると、急な坂道になって湖岸に至る。夕暮れ時の湖は一幅の絵のように実に幻想的である。バスは二千年前の主イエスの時代を追うかのように湖に近付いてゆくのだが、林立するホテルや民家が、それを無残にも打ち消してしまう。やがて湖の西岸、ティベリアに着いた。

翌日の三日目、早く起きて湖畔を歩く。水はきれいで澄んでいる。目の前はボートがもやもやしてフェンスで入れない。しばらく歩いてみると、釣りをしている人がいる。そこから湖岸に降りると、一匹の野良猫が近付いてきた。イスラエルにはどこに行っても猫がいる。じつとこつちを見て何かをねだっている。波打ち際にはどっぷり水を含んだパンが幾つも転がっているというのに……

ふと、目を下に向けてみると、岸辺には二枚貝や巻貝が散在している。それを拾いながら、主イエスの生前を思い浮かべていた。主の活動はこの辺りが中心だった。主はこの岸辺を歩いたり、弟子と語ったり、湖上を歩く奇跡をしたのもこの近くであったろう。そう思うと、目の前に打ち寄せるさざ波すらも愛しく感じられて去り難かった。まだ日の出前の薄明かりの中、そこだけが二千年前に引き戻されてくれているようで、ただ主イエスの名を呼び続けていた(続く)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

